

個人的な体験や日常を扱ったエッセイや随筆も入試ではよく出題される。Iを主語とした、主観的な内容や経験 ▶ STAGE 3-1 や、ある人物を紹介するような内容 ▶ STAGE 1-1 STAGE 2-3 も扱われる。以下のような表現や文法をおさえておくと、読みやすくなるだろう。

テーマに効く表現

◆ 職業に関する語 STAGE 1-1 STAGE 2-3

エッセイ・随筆の内容は、語る人・語られる人の職業が理解できるよう、以下の表現を押さえておこう。

テーマに関連した、読解に役立つ語彙・表現の解説

accountant [ká nt()nt] (会計士)	firefighter [fá r fà t r] (消防士)
architect [rk t èkt] (建築士)	flight attendant (客室乗務員)
astronaut [æstr n t] (宇宙飛行士)	interpreter [nt rpr t r] (通訳者)
bank clerk [officer] (銀行員)	journalist [d rn()l st] (報道記者)
care worker (介護福祉士)	judge [d d] (裁判官)
carpenter [k rp()nt r] (大工)	lawyer [l r] (弁護士)
celebrity [s lébr tɪ] ((芸能・スポーツなどの) 有名人)	musician [mju z ()n] (音楽家)
counselor [ká ns()l r] (カウンセラー)	paramedic [pæ r méd k] (救急救命士)
curator [kj re t r] (学芸員)	police officer (警察官)
detective [d tékt v] (刑事；探偵)	politician [p ()l t ()n] (政治家)
diplomat [d pl mæ t] (外交官)	(computer) programmer (プログラマー)
engineer [èn(d) n r] (技術者)	scholar [sk ()l r] (学者)
entertainer [ènt ré n r] (芸(能)人)	scientist [sá nt st] (科学者)
	secretary [sékr tèrɪ] (秘書)
	voice actor (声優)

なお、「サラリーマン；会社員」はan office workerとする。×a salary man (person)。

つながる言葉、広がる世界 ▶▶▶ STAGE 1

astronautは「宇宙飛行士」という意味で、その語源はある。前者と同じ語源を持つ単語としてasterisk (星印、惑星)、astrology (占星術) などがある。後者と同じように「船」や「海」に関連する語源を持つものとして、navy (海軍)、navigate (航海する；操縦する)、nausea [n zi] (船酔い；吐き気) などがある。

spaceもuniverseも日本語では「宇宙」となるが、これらの違いは英英辞典を引くとわかりやすい。Oxford Advanced Learner's Dictionary (OALD) を調べると、spaceはthe area outside the earth's atmosphere where all the other planets and stars areと定義されており、地球の大気圏外の空間を指すことがわかる。「地球外」ということを強調してouter spaceと呼ばれることもある。一方、universeはthe whole of space and everything in it, including the earth, the planets and the starsとあり、地球を含む宇宙全体を指す。

次に読む英文の内容に焦点を当てた背景知識の解説



読解のための英文法

◆ 無生物主語構文 STAGE 1-1

日本語と英語の文法的な違いの1つに無生物主語構文。生物主語を主語にとることも多い。例えば、他動詞のwind opened the door.のように表現できるが、これをそのまま日本語に訳すと、「強い風はドアを開けた。」のように不自然になる。日本語では「強い風でドアが開いた」のように、主語を副詞的に訳すと自然になる。以下、代表的な無生物主語構文の例をいくつか挙げる。

本書の英文を読み進める上でヒントになる英文法の解説

【原因・理由が主語になる】

- (1) The news **made** everyone happy. (その知らせで皆はうれしくなった。)
- (2) His advice **enabled** me to keep my cool. (彼のアドバイスで冷静になれた。)
- (3) The rain **prevented** us from going out. (雨で外出できなかった。)

【情報源が主語になる】

- (4) The movie **taught** me a lot about French culture. (その映画でフランスの文化がよくわかった。)
- (5) The book **says** that fish sleep with their eyes open. (その本によると魚は目を開けたまま寝るらしい。)

【時間が主語になる】

- (6) That year **saw** a lot of snow. (その年は多くの雪に見舞われた。)
- (7) A five-minute walk will **bring** us to the station. (5分も歩けば駅に着くだろう。)

入試にこう出る

◆ 無生物主語構文

‘使役’ (...させる)の意味を持つenableやれやすい。入試データを使って見ていこう。

入試で実際に出た実例を元に、学んだ知識がどう活きるかを確認

【enableと結びつきやすい無生物主語】

technology, machine, process, program, environmentといった科学技術・環境に関する表現
(10) In recent times, new technologies have **enabled** society to exploit deposits of minerals deep beneath the desert surface. (近年、新しい技術によって砂漠の地中深くに眠る鉱物を利用することができるようになった。) <東京理科大>

【preventと結びつきやすい無生物主語】

law(法律)などの制度に関する表現やstormやtyphoonといった天候に関する表現
(11) In the 1920s, new laws **prevented** Africans from getting jobs with good pay and from owning land and houses in the towns. (1920年代には、新しい法律によりアフリカ人は高給の仕事に就くことも、町に土地や家を所有することもできなくなった。) <多摩美術大>
(12) The storm **prevented** the airplane from taking off. (嵐のせいで飛行機が離陸できなかった。) <金城学院大>

Gain a Deeper Insight

◆ Humans have witnessed supernovas. (00

11世紀の中国で天文学者 (astronomer) が超新星 (supernova) を観測した。これがどのようなものだったか、動画を見て聞き取ってみよう。

無料 関連するテーマをブリタニカ百科事典の動画で学習

